

県と連携した森林・林業セミナーによる 市町村支援への取組

1 テーマの趣旨・目的

支援概要

各市町村の林務担当者は、数年で部署異動があり「森林・林業担当」として固定化が難しく、森林・林業に精通したスタッフが不足している状況の中、新しく担当になった方は不安を抱えている。

まずは市町村担当者がどのような事に困っており、何を求めているのか探ることを目的に令和4年度に初めて四万十森林管理署単独で「森林・林業セミナーIn 四万十」を開催した。

そのセミナーで市町村担当者から出された意見や要望を確認する中で、国有林単独では実施困難と考え、各市町村の実態を最も把握している高知県各林業事務所との連携及び支援が必要不可欠だと考え、令和5年度から国(国有林)と県林業事務所が連携し、各市町村の林務担当者の森林・林業に関する基礎知識の習得を支援するとともに、森林資源を活かした地域づくり等について、意見交換等ができる場を設定した。

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

取組の体制・工夫

開催に当たり、県林業事務所長(幡多・須崎)及び各市町村長(管内11市町村)に取組の趣旨を説明し、職員の参加について協力依頼を行った。

市町村担当者より「終日開催や研修、会議等が多いと事務が滞ってしまう」といった意見があったことから、県各林業事務所において主催する研修会と同日に本セミナーを開催する

ことで、市町村担当者の負担軽減に配慮した。

また、セミナーの実施にあたり11市町村を1つの箇所を集めるとなると移動時間が遠い市町村が必ず出てくることから、幡多地区(6市町村)、須崎地区(5市町)の2ブロックに分けて開催することで市町村担当者が参加しやすい体制づくりを行った。

セミナー後、参加者へアンケートを実施したところ、「県の会議と同日開催であるため参加しやすい」、「国・県でそれぞれ異なった研修内容を1日で実施してもらえるため内容が充実している」など市町村担当者からは高評価を得ている。

なお、セミナー開催の事前準備として県林業事務所と国有林配布資料の確認や駐車場確保、危険な場所等の事前確認やリハーサルを合同で行った。

また、取組を行った成果として、これまで国有林職員と市町村担当者はお互いがあまり顔を知らなかったのが、セミナーを通じて顔を知ることができたことにより、業務を進める上でお互いが困った時に気軽に相談することができるよう間柄を構築することができた。

今後においても県と連携し、参加者の負担を軽減しつつ、それぞれが主催する研修等とセットで開催し、内容の充実を図ることとした。



三原村長への説明 林業事務所と事前下見

【令和5年度の実績】

●四万十地区6市町村

(宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町)

第1回 (R5年9月28日) : 30名

(市町村14名、県6名、森づくりセンター2名、署8名)

内容: 森林作業道作設、伐倒作業(林業事業体が講師)

ドローン操作体験(国が講師)

第2回 (R6年2月14日) : 27名

(市町村11名、県7名、森づくりセンター2名、署7名)

内容: 造材(木材共販所及び県が講師)、
収穫調査(国が講師)



森林作業道作設状況



木材共販所見学

●須崎地区5市町

(須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町)

第1回 (R5年12月18日) : 36名

(市町8名、県8名、事業体7名、署13名)

内容: 植え付け、単木保護(森林組合が講師)

低密度植栽講義(県が講師)

第2回 (R6年2月29日) : 21名

(市町9名、県4名、署8名)

内容: 造材、運搬、選木機説明(森林組合が講師)

座学(県及び国が講師)



植付作業体験



座学

【令和6年度の実績】

●須崎地区5市町

(須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町)

第1回 (R6年10月30日) : 30名

(町4名、県7名、局2名、署17名)

内容: 間伐の必要性(国有林が講師)、高知県産材の取組(県が講師)



点状間伐の見学



県産材の取組説明

3 今後取組むべき内容

今後も県と連絡・調整を密に行い、連携して開催することで**研修内容の充実化**や各市町村担当者の**技術習得**等へ繋げていきたい考えである。

また、異動等により担当者が変わったとしてもお互いの顔の見える関係づくりの構築は必要と考えることから、国有林・県・市町村が更なる連携及び協力体制の構築を継続して行う考えである。

問い合わせ先:

四万十森林管理署 森林技術専門官 0880-34-3155